

まちづくりの方向性 8 について



施策（8-1） 地域の特性を生かした都市づくり

目指す姿

地域の個性をふまえながら、安全・安心で快適に暮らせ、また、魅力と活力をもって人々を魅了し価値を生み出すとともに、誰もが自分らしいライフスタイルを実現でき、まちに誇りや愛着の持てる幸福度の高い都市

取組方針

公民連携による持続可能な都市づくり

これまで、区は文化・芸術の発信拠点である Hareza池袋や特色ある池袋駅周辺の四つの公園など、地域の拠点となる公共施設を整備してきました。

今後は、まちを利用する人にとって居心地の良い魅力ある都市づくりを、公民連携で推進していくことが求められています。

「人」が主役の都市づくり

- 多様な主体が集まりイノベーションを生み出す交流機能や、文化やまちの賑わいを演出する発信機能、誰もが自由に休憩できる滞留機能など、**まちの快適性が向上する機能を備えた都市空間を公民連携で創出**します。
- 施設整備などハード面の事業を進める際は、それに関わる防災や観光、子育て、情報などのソフト面の取組みと**行政分野の枠組みを超えて連携**することで、住む人や訪れる人の視点に立った効率的・効果的な都市づくりを推進します。

個性ある美しい都市空間の創出

豊島区には駒込のソメイヨシノや巣鴨の地蔵通り、ユネスコ未来文化遺産の雑司が谷、南長崎のトキワ荘など、地域それぞれに魅力あるスポットが点在しています。

個性ある地域や拠点到磨きをかけるとともに、利便性や相乗効果などを高められるよう地域間を結びつける空間整備や機能導入が必要です。

特色ある拠点の創出とつながりの強化

- 歴史や文化といった地域特性や、施設等の資源、良好な景観、地域固有の課題などを踏まえながら、**個性と魅力があふれる特色ある地域拠点を創出**します。
- 道路の景観舗装化やバリアフリー化、四季の彩りを感じる植栽の配置等により、各拠点をつなぐ**快適な歩行者ネットワークを整備**します。また、民間建物の低層階に賑わい施設を誘導するなど、歩行者の更なる利便性や快適性などの向上を図ります。また、まちづくりと連動して、新駅設置に向けて関係機関と協議していきます。
- 既存の地域公共交通の維持確保を図るとともに、高齢者や障害者など交通弱者の方々が快適に移動できるよう、公共交通を利用しづらいエリアの解消に向けて、新たなモビリティの導入も含め、**区全体の地域公共交通のあり方について検討**を行います。

【施策の効果を表す代表的な指標】

成果指標	現状値 (2024年)	目標値 (2029年)
「地域特性にあわせたまちづくりが進み、快適な街並みが生まれている」と思う区民の割合【%】	35.6	41.0

活動指標	現状値 (2024年)	目標値 (2029年)
地区計画の区域面積【ha】	368	369

施策チェックシート

1. 施策名

	旧	新
施策名	地域の特性を生かした市街地の形成(6-1-1) 活力のある地域拠点の再生(6-1-3) 居心地が良く歩きたくなる空間づくり(6-1-4) 総合交通戦略の推進(6-3-1) 道路・橋梁の整備と維持保全(6-3-2)	地域の特性を生かした都市づくり

2. 施策のポイント

現状	課題	取組方針
①豊島区は、池袋駅周辺の四つの公園など地域の拠点となる公共施設を整備してきた。 ②豊島区には、地域それぞれに魅力あるスポットが点在している。	①居心地の良い都市づくりを、公民連携で推進することが求められている。 ②個性ある地域間を結びつける空間整備や機能導入が必要	①まちに誇りや愛着の持てる幸福度の高い都市づくりを推進する。 ②魅力ある地域拠点を創出し、歩行者ネットワークを整備する。

3. 現計画における主な事業

計画事業
池袋駅東口A・C・D地区地区計画変更事業(218)
豊島区景観計画推進事業(216)
エリアマネジメント推進事業経費(230)
ウォーカブルまちづくり推進事業経費(233)
地域公共バス運行支援事業(245)
区道の整備事業(247)
その他事業

施策チェックシート

4. 環境変化(社会動向・法改正・背景等)

○ウォーカブル施策の推進(令和4年1月～)

池袋を起点として、魅力あふれるスポットを繋ぎ、区内全体を回遊性の高いまちへと発展させる。

5. 区民・関係団体等の声

区民・関係団体等の声	○池袋駅周辺の地区計画について、建物の建替えを誘導するためにも、規制だけのルールだけでなく緩和のルールもあると良いと思う。(地元説明会)
施策に反映させた点	○池袋駅東口A・C・D地区地区計画変更事業において、地域特性を踏まえた緩和のまちづくりルールを検討し、都市計画変更を行う。

6. 基本構想の3つの理念を意識した点 ※現時点での構想案は別紙参照

(1)「誰もがいつでも 主役」を意識した点 【平和・人権、多様性の尊重】	「まちを利用する人の年齢や性別、文化の違い、障害の有無によらず、誰もが自分らしいライフスタイルを実現」のように、多様性を意識した都市づくりの視点を明記した。
(2)「みんながつながる」を意識した点 【参画・協働・共創】	「まちの快適性が向上する機能を備えた都市空間を公民連携で創出」のように、多様な主体が連携し都市づくりを進めることを明記した。
(3)「『としま』らしさ があふれる」を意識した点 【文化・歴史の継承、地域特性の活用】	「個性と魅力があふれる特色ある地域拠点を創出」のように、地域特性や固有の課題をふまえて、魅力ある都市づくりを進めることを明記した。

指標設定チェックシート

施策名	8-1	地域の特性を生かした都市づくり
部課名	都市整備部 都市計画課	

【1. 目指す姿、取組方針と指標の対応関係】

目指す姿	取組方針	定量的評価				定性的評価
		成果指標		活動指標		数値目標では捉えられない／ 数値化できない評価の視点
○景観や賑わいの向上により、 街を訪れた人が、思わず歩きたくなるウォーカブルな都市	(1) ○ 多様な主体が集まりイノベーションを生み出す交流機能や、文化やまちの賑わいを演出する発信機能、誰もが自由に休憩できる滞留機能など、まちの快適性が向上する機能を備えた都市空間を公民連携で創出します。 ○ 施設整備などハード面の事業を進める際は、それに関わる防災や観光、子育て、情報などのソフト面の取組みと行政分野の枠組みを超えて連携することで、住む人や訪れる人の視点に立った効率的・効果的な都市づくりを推進します。	①	「地域特性にあわせたまちづくりが進み、快適な街並みが生まれている」について肯定的な回答をする区民の割合【%】	③	地区計画の区域面積【ha】	区民・事業者・NPO・大学などの連携による協働の度合い
		②		④		
	(2) ○ 歴史や文化といった地域特性や、施設等の資源、良好な景観、地域固有の課題などを踏まえながら、個性と魅力があふれる特色ある地域拠点を創出します。 ○ 道路の景観舗装化やバリアフリー化、四季の彩りを感じる植栽の配置等により、各拠点をつなぐ快適な歩行者ネットワークを整備します。また、民間建物の低層階に賑わい施設を誘導するなど、歩行者の更なる利便性や快適性などの向上を図ります。また、まちづくりと連動して、新駅設置に向け関係機関と協議していきます。 ○ 既存の地域公共交通の維持確保を図るとともに、高齢者や障害者など交通弱者の方々が快適に移動できるよう、公共交通を利用しづらいエリアの解消に向けて、新たなモビリティの導入も含め、区全体の地域公共交通のあり方について検討を行います。	①	「地域特性にあわせたまちづくりが進み、快適な街並みが生まれている」について肯定的な回答をする区民の割合【%】	③	景観法に基づく行為の届出件数【件】	美しい街並みの形成の程度
		②		④		

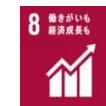
【2. 施策の効果を表す代表的な指標】

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】					新基本計画期間(2025-2029)								
指標名			単位	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	後期計画と同じ指標→継続 新計画で新規設定→新規	(左記、継続の指標のみ) 後期計画の施策番号・施策名	
				実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値			
取組方針 (1)	成果指標	①	「地域特性にあわせたまちづくりが進み、快適な街並みが生まれている」について肯定的な回答をする区民の割合	%	35.6	36.0	37.0	38.0	39.0	40.0	41.0	継続	6-1-1地域の特性を生かした市街地の形成
	成果指標	②											
	活動指標	③	地区計画の区域面積	ha	368.0	368.0	368.0	369.0	369.0	369.0	369.0	継続	6-1-1地域の特性を生かした市街地の形成
	活動指標	④											
取組方針 (2)	成果指標	①	「地域特性にあわせたまちづくりが進み、快適な街並みが生まれている」について肯定的な回答をする区民の割合	%	35.6	36.0	37.0	38.0	39.0	40.0	41.0	継続	6-1-1地域の特性を生かした市街地の形成
	成果指標	②											
	活動指標	③	景観法に基づく行為の届出件数	件	53.0	55.0	55.0	55.0	60.0	60.0	60.0	継続	6-1-1地域の特性を生かした市街地の形成
	活動指標	④											

指標			指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
取組方針(1)	成果指標	①	区民意識調査による「地域特性にあわせたまちづくりが進み、快適な街並みが生まれている」について肯定的な回答をする区民の割合	地域特性に応じた都市づくりの成果を示す指標のため	協働のまちづくりに関する区民意識調査報告書
	成果指標	②			
	活動指標	③	都市計画図書の区域面積による	地域特性に応じたきめ細やかな都市づくりの推進状況を示す指標であるため	所管課データ
	活動指標	④			
取組方針(2)	成果指標	①	区民意識調査による「地域特性にあわせたまちづくりが進み、快適な街並みが生まれている」について肯定的な回答をする区民の割合	地域特性に応じた都市づくりの成果を示す指標のため	協働のまちづくりに関する区民意識調査報告書
	成果指標	②			
	活動指標	③	届出受付台帳による	地域特性を生かした景観形成の進捗状況を示す客観的な指標のため	所管課データ
	活動指標	④			

【3. 計画に掲載する指標の選定】

	指標種類	取組方針及び 指標番号	選定指標	選定理由
1	活動指標	(1)―①	地区計画の区域面積【ha】	各取組方針の進捗状況を図るのにふさわしいと考えられるため。
2	成果指標(区民意識調査)	(2)―①	「地域特性にあわせたまちづくりが進み、快適な街並みが生まれている」について肯定的な回答をする区民の割合【%】	



施策(8-2) 池袋駅周辺地域の再生

目指す姿

池袋駅を中心として、様々な機能(「芸術」、「文化」、「観光」、「商業」、「業務」、「住宅」、「宿泊」、「教育」など)が融合し、国内外の多様な人を呼び込み、賑わいと活力が生み出されている。

取組方針

歩行者の回遊性向上

池袋駅は一日約200万人超が利用する巨大ターミナル駅ですが、利用者の約75%が乗換目的であることに加え、来街者の多くが駅に隣接した商業施設などに集中しています。また、鉄道などによりまちが東西に分断されている現状があります。

みどりに富み、防災力も備えた公共空間を拡充させ、回遊性を向上させる必要があります。

ウォーカブルな都市空間の形成

- 池袋駅周辺地域では、地区計画の活用や民間都市再生事業を通じて、様々な都市機能を集積させるとともに歩行者空間の拡幅など多様な空間整備を促し、**芸術・文化の活動・発信拠点の拡充**を図ります。さらに、防災性の強化や潤い豊かな**みどりを増やし、池袋の魅力や価値をさらに向上**させます。
- 池袋駅の東西を繋ぐ**自由通路(デッキ)整備**や環状5の1号線開通を見据えた東口駅前**広場の再編(クルドサック化)**の検討、西口での再開発事業を通じた**駅前広場の再整備・歩行者空間の拡充**を推進し、誰もが駅からまちへ、東西のまちからまちへ快適に行き交うことのできる**ウォーカブルなまちの中心**として再生していきます。

既存ストックの利活用

地域特性に応じた魅力あるまちづくりを進めるためには、街区全体の再編のみならず個別敷地での機能更新も進めていく必要があります。

その中で、池袋に日常的に多くの人を訪れ、長く滞在してもらえよう、常にまちの賑わいと活力を創出し続けることが必要です。

ハード・ソフトの既存ストックを有効活用

- グリーン大通りなどの**公共空間を活用**した社会実験や、**地域拠点の価値を高める**エリアマネジメントの運営を支援します。
- 池袋で活動する多様な主体が協働して進める**池袋エリアプラットフォームとの連携**により、目指すべき将来像を共有し、その実現を目指すとともに、今ある**ソフト・ハードのあらゆるストックを利活用し、池袋の魅力や価値を発信**していきます。

【施策の効果を表す代表的な指標】

成果指標①	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)
「池袋周辺で、新宿、渋谷などない魅力あるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】	46.7	52.0

成果指標②	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)
池袋駅周辺地域の鉄道駅(池袋駅、東池袋駅)乗降客数【人】	2,350,918	2,550,000

施策チェックシート

1. 施策名

	旧	新
施策名	池袋副都心の再生(6-1-2)	池袋駅周辺地域の再生

2. 施策のポイント

現状	課題	取組方針
①池袋駅は、約200万人の乗降客数を有する都内有数のターミナル駅であるが、鉄道等によりまちの東西が分断されている。 ②行政主導のまちづくりの限界	①駅利用者の約75%が乗換利用者であることから、歩行者が駅構内等に集中し、駅周辺部への回遊性を生み出せていない。 ②公民連携によるまち全体の魅力向上や新たな賑わいの創出	①東西自由通路や東西駅前広場の再編の検討を推進する。 ②エリアマネジメント団体の支援と池袋エリアプラットフォームの活動展開

3. 現計画における主な事業

計画事業
池袋副都心再生推進事業(219)
池袋駅東西連絡デッキ整備事業(220)
池袋駅西口地区まちづくり(221)
池袋駅東口街区再編まちづくり推進事業(223)
その他事業

施策チェックシート

4. 環境変化(社会動向・法改正・背景等)

◇ 平成27年7月に、池袋駅周辺地域が特定都市再生緊急整備地域に指定されたことを契機として、「池袋駅周辺地域まちづくりガイドライン」など複数の上位計画を策定。令和6年2月に「池袋駅コア整備方針2024」を策定し、池袋駅及びその周辺地域の誘導すべき都市機能や都市基盤などの整備方針をとりまとめた。

5. 区民・関係団体等の声

区民・関係団体等の声	○ 人中心の駅前空間について賛成。一方、高齢者や障がい者、子ども連れなどの交通弱者の一般車両が駅直近にアクセスできることも重要。(R5.12 池袋駅コア整備方針パブコメ時の区民意見)
施策に反映させた点	○ 東西を繋ぐ自由通路(デッキ)や東口駅前広場の再編(クルドサック化)等の整備検討、西口再開発を通じた西口駅前広場の整備を推進し、池袋駅を誰もが快適に行き交うことのできるウォーカブルなまちの中心として再生していく旨を明記した。

6. 基本構想の3つの理念を意識した点 ※現時点での構想案は別紙参照

(1)「誰もがいつでも主役」を意識した点 【平和・人権、多様性の尊重】	○ 東西を繋ぐ自由通路(デッキ)や東西の駅前広場の再整備などを推進し、池袋駅を誰もが快適に行き交うことのできるウォーカブルなまちの中心として再生していく旨を明記した。
(2)「みんながつながる」を意識した点 【参画・協働・共創】	○ エリアマネジメントなど地域の主体的な活動を支援することや、地域で活動する多様な主体の連携を支援することを明記した。
(3)「『としま』らしさがあふれる」を意識した点 【文化・歴史の継承、地域特性の活用】	○ ターミナル駅としての都市機能が集積し、駅周辺に集客施設が充実していることに加え、文化資源活用による芸術・文化が融合したまちづくりを推進する旨を明記した。 ○ 池袋は、鉄道施設等によりまちの東西が分断されているが、デッキ、西口再開発、さらに環状5の1号線の整備を踏まえた東口の駅前広場の再編(クルドサック化)の検討を推進する旨を明記した。

指標設定チェックシート

施策名	8-2	池袋駅周辺地域の再生
部課名	都市整備部都市基盤担当課	

【1. 目指す姿、取組方針と指標の対応関係】

目指す姿	取組方針	定量的評価				定性的評価
		成果指標		活動指標		数値目標では捉えられない／ 数値化できない評価の視点
池袋駅を中心として、様々な機能(「芸術」、「文化」、「観光」、「商業」、「業務」、「住宅」、「宿泊」、「教育」など)が融合し、国内外の多様な人を呼び込み、賑わいと活力が生み出されている。	(1) ○池袋駅周辺地域では、地区計画の活用や民間都市再生事業を通じて、様々な都市機能を集積させるとともに歩行者空間の拡幅など多様な空間整備を促し、芸術・文化の活動・発信拠点の拡充を図ります。さらに、防災性の強化や潤い豊かなみどりを増やし、池袋の魅力や価値をさらに向上させます。 ○池袋駅の東西を繋ぐ自由通路(デッキ)整備や環状5の1号線開通を見据えた東口駅前広場の再編(クルドサック化)の検討、西口での再開発事業を通じた駅前広場の再整備・歩行者空間の拡充を推進し、誰もが駅からまちへ、東西のまちからまちへ快適に行き交うことのできるウォーカブルなまちの中心として再生していきます。	①	「池袋周辺で、新宿、渋谷などない魅力あるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】	③	池袋駅周辺地域再生委員会等の累計開催数【回】	池袋駅周辺の歩行者数【人】
		②	池袋駅周辺地域の鉄道駅(池袋駅、東池袋駅)乗降客数【人】	④		
	(2) ○グリーン大通りなどの公共空間を活用した社会実験や、地域拠点の価値を高めるエリアマネジメントの運営を支援します。 ○池袋で活動する多様な主体が協働して進める池袋エリアプラットフォームとの連携により、目指すべき将来像を共有し、その実現を目指すとともに、今あるソフト・ハードのあらゆるストックを利活用し、池袋の魅力や価値を発信していきます。	①	「池袋を中心として、居心地が良く歩きたくなるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】	③	池袋エリアプラットフォームの会員数【社】	池袋駅からのまちへ流出した歩行者数【人】
		②	エリアマネジメントの団体数【団体】	④		

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】				新基本計画期間(2025-2029)									
指標名				単位	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	後期計画と同じ指標→継続 新計画で新規設定→新規	(左記、継続の指標のみ) 後期計画の施策番号・施策名
					実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		
取組方針 (1)	成果指標	①	「池袋周辺で、新宿、渋谷などにない魅力あるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合	%	46.7	49.0	50.0	50.5	51.0	51.5	52.0	継続	6-1-2池袋副都心の再生
	成果指標	②	池袋駅周辺地域の鉄道駅(池袋駅、東池袋駅)乗降客数	人	2,350,918	2,390,000	2,430,000	2,460,000	2,490,000	2,520,000	2,550,000	新規	
	活動指標	③	池袋駅周辺地域再生委員会等の累計開催数	回	24	35	40	41	42	43	45	継続	6-1-2池袋副都心の再生
	活動指標	④											
取組方針 (2)	成果指標	①	「池袋を中心として、居心地が良く歩きたくなるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合	%	34.5	35.0	36.0	37.0	38.0	39.0	40.0	継続	6-1-4居心地が良く歩きたくなる空間づくり
	成果指標	②	エリアマネジメントの団体数	団体	2	2	3	3	3	4	5	新規	
	活動指標	③	池袋エリアプラットフォームの会員数	社	89	93	96	99	102	104	105	継続	
	活動指標	④											

指標		指標の算出方法		指標の設定理由(施策目標との関係)		出典
取組方針(1)	成果指標	①	区民意識調査での「池袋周辺で、新宿、渋谷などにない魅力あるまちづくりが進んでいるか」という質問について肯定的な回答をした区民の割合	施策に対する区民の印象を把握できる指標であるため		協働のまちづくりに関する区民意識調査
	成果指標	②	池袋駅及び東池袋駅の乗降客数	池袋駅及び東池袋駅の乗降客数を把握できる指標であり、池袋駅周辺地域の賑わいを示す指標であるため。		鉄道各社HP
	活動指標	③	池袋駅周辺地域再生委員会等の累計開催数	区の附属機関による、池袋駅周辺地域におけるまちづくりの検討回数を示す指標であるため		所管課データ
	活動指標	④				
取組方針(2)	成果指標	①	区民意識調査での「池袋を中心として、居心地が良く歩きたくなるまちづくりが進んでいる」という質問について肯定的な回答をした区民の割合	施策に対する区民の印象を把握できる指標であるため		協働のまちづくりに関する区民意識調査
	成果指標	②	エリアマネジメント団体が組成されている数	民間主体によるまちづくりが行われていることを示す指標であるため		所管課データ
	活動指標	③	池袋エリアプラットフォームに入会している企業、団体数	池袋駅周辺で産官学民の連携によるウォーカブルなまちづくりの推進が図られていることを示す指標であるため		所管課データ
	活動指標	④				

【3. 計画に掲載する指標の選定】

	指標種類	取組方針及び指標番号	選定指標	選定理由
1	成果指標(区民意識調査)	(1)-①	「池袋周辺で、新宿、渋谷などにない魅力あるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合	・各取組方針の進捗を図るにふさわしく、施策を最も広く表していると考えられるため。
2	成果指標(区民意識調査以外)	(1)-②	池袋駅周辺地域の鉄道駅(池袋駅、東池袋駅)乗降客数	

施策(8-3) 交通安全対策の推進

目指す姿

交通安全の気運醸成と歩行者や自転車の道路交通環境の整備により、すべての区民の命を守り、快適に生活できるまちとなっている。

取組方針

交通安全の気運醸成と交通環境整備

公民連携(区、警察及び地域)により、春と秋の交通安全運動、放置自転車対策・自転車安全利用キャンペーンを行っています。交通事故の約半数は、自転車乗用中となっています。路面標示、防護柵、カーブミラーなど、交通安全上、必要不可欠な区道の施設を適切に配置しています。

また、自転車駐車場は、施設の老朽化や多様な自転車利用への対応が不足しています。

交通事故を減らし、死者をゼロにするため、社会情勢の変化に応じた交通安全の普及啓発と交通環境の整備、区民ニーズを捉えた誰もが使いやすい自転車駐車場の整備を推進する必要があります。

交通安全の普及啓発と安全・安心で快適な交通環境の整備

- 年間を通じて、地元警察署、地域団体(町会・商店会等)、学校、鉄道事業者、地元企業と連携協力し、交通安全の普及啓発に取り組みます。
- 子育て世代や高齢者向けの研修会を開催し、交通ルールの遵守・マナー向上、自転車損害保険等の加入や高齢者の自動車運転免許の返納を呼びかけます。
- 自転車交通事故で死亡した方の多くは、頭部を損傷していることから、自転車用ヘルメットの着用を促すため、**全年齢対象の購入補助制度の活用**を呼びかけます。
- 来街する外国籍の方などにも、交通ルールやマナーを理解してもらうため、**多言語を用いて、冊子、区ホームページやSNSによる情報発信**を行います。
- 自転車駐車場は、**民間経営的な視点を取り入れながら**、自転車の大型化や電動化に対応し、誰もが使いやすい施設として整備を進めます。また、**放置自転車の多い地域周辺のビルテナントや店舗等に協力を促し**、自転車の短時間放置を抑制します。
- **交通事故や自転車走行空間の情報に基づき、地域に根差した効率的かつ効果的な交通安全対策**を推進します。

【施策の効果を表す代表的な指標】

成果指標①	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)
区内の自転車乗用中の交通事故発生件数 【件/年】	307	260

成果指標②	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)
交通安全研修会(子育て世代・高齢者研修会)等への参加人数【人/年】	1,037人	1,065人

施策チェックシート

1. 施策名

	旧	新
施策名	自転車利用環境の充実(6-3-3) 交通安全対策の推進(6-5-2)	交通安全対策の推進

2. 施策のポイント

現状	課題	取組方針
公民連携により、春と秋の交通安全運動、放置自転車対策、自転車安全利用キャンペーンを行っているが、交通事故の約半数は自転車乗用中となっている。	交通事故を減らし、死者をゼロにするため、社会情勢の変化に応じた交通安全の普及啓発と交通環境の整備を推進する必要がある。	交通安全の普及啓発と安全・安心で快適な交通環境の整備に取り組み、保険加入やヘルメット着用を促していく。また、多言語による情報発信をあわせて行う。

3. 現計画における主な事業

計画事業
交通安全施設整備事業(283)
自転車ヘルメット普及啓発事業(284)
その他事業
交通安全対策事業

施策チェックシート

4. 環境変化(社会動向・法改正・背景等)

- ◇改正道路交通法(2023年4月施行)により、自転車用ヘルメットの着用が努力義務化された。
- ◇フードデリバリーサービスの急成長等自転車利用の多様化とともに、交通ルールを順守しない自転車等が社会問題となり、道路交通法の改正(2024年5月参院可決。周知期間を経て2年以内に施行)により反則金などの導入が図られた。

5. 区民・関係団体等の声

区民・関係団体等の声	電動キックボード、モペットバイク等、新たなモビリティの出現により、さらなる交通安全の普及啓発の促進を望む声が多数挙がっている(区民の声など)
施策に反映させた点	交通安全対策の推進には、ハード面である交通環境の整備のほか、ソフト面である交通安全対策事業や全年齢層対象の自転車ヘルメット普及啓発事業(自転車安全利用の推進)を、区、警察、地域と連携して推進する事業として記した。

6. 基本構想の3つの理念を意識した点 ※現時点での構想案は別紙参照

(1)「誰もがいつでも主役」を意識した点 【平和・人権、多様性の尊重】	短期間で来街される外国籍の方などにも、交通ルールを理解していただくため、多言語での交通安全普及啓発を推進するよう明記した。
(2)「みんながつながる」を意識した点 【参画・協働・共創】	交通安全対策の事業推進には、地元警察署や地域ボランティア、学校など、地域の多様な主体と連携して実施することが不可欠であることから、様々な地域主体等と一緒に取組むことを明記した。
(3)「『としま』らしさがあふれる」を意識した点 【文化・歴史の継承、地域特性の活用】	区の強みである公民連携(地域連携)を交通安全啓発活動として共に推進することを明記した。

指標設定チェックシート

施策名	8-3	交通安全対策の推進
部課名	都市整備部 土木管理課	

【1. 目指す姿、取組方針と指標の対応関係】

目指す姿	取組方針	定量的評価		定性的評価
		成果指標	活動指標	数値目標では捉えられない／ 数値化できない評価の視点
交通安全の気運醸成と歩行者や自転車の道路交通環境の整備により、すべての区民の命を守り、快適に生活できるまちとなっている。	(1) 【交通安全の普及啓発と安全・安心な道路交通環境の整備】 ○年間を通じて、地元警察署、地域団体(町会・商会等)、学校、鉄道事業者、地元企業と連携協力し、交通安全の普及啓発に取り組みます。 ○子育て世代や高齢者向けの研修会を開催し、交通ルールの遵守・マナー向上、自転車損害保険等の加入や高齢者の自動車運転免許の返納を呼びかけます。 ○自転車交通事故で死亡した方の多くは、頭部を損傷していることから、自転車用ヘルメットの着用を促すため、全年齢対象の購入補助制度の活用を呼びかけます。 ○来街する外国籍の方などにも、交通ルールやマナーを理解してもらうため、多言語を用いて、冊子、区ホームページやSNSによる情報発信を行います。 ○自転車駐車場は、民間経営的な視点を取り入れながら、自転車の大型化や電動化に対応し、誰もが使いやすい施設として整備を進めます。また、放置自転車の多い地域周辺のビルテナントや店舗等に協力を促し、自転車の短時間放置を抑制します。 ○交通事故や自転車走行空間の情報に基づき、地域に根差した効率的かつ効果的な交通安全対策を推進します。	① 区内の自転車乗用中の交通事故発生件数【件/年】	⑤ 地域連携による交通安全運動等の実施【回/年】	地域と連携し進める左記等の諸活動を通じて、区は地域情報に直接触れることができる。なにより区民が交通安全へ関心を持つきっかけとなっている。
		② 交通事故が少ない(満足度:どちらかというと思う)【%】	⑥ 安全・安心メール配信、多様な広報媒体による広報活動の実施【回/年】	
		③ 交通安全研修会(子育て世代・高齢者研修会)等への参加人数【人/年】	⑦ 自転車用ヘルメット補助個数【個/年】	
		④ 安全・快適に自転車が利用できる(満足度:どちらかというと思う)【%】	⑧ 交通安全研修会(子育て世代・高齢者研修会)等の開催回数【回/年】	

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】				新基本計画期間(2025-2029)									
指標名				単位	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	後期計画と同じ指標→継続 新計画で新規設定→新規	(左記、継続の指標のみ) 後期計画の施策番号・施策名
					実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		
取組方針 (1)	成果指標	①	区内の自転車乗用中の交通事故発生件数【件/年】	件	307	226	300	290	280	270	260	継続	6-5-2 交通安全対策の推進
	成果指標	②	交通事故が少ない(満足度:どちらかという とそう思う)【%】	%	24.0	24.2	24.4	24.6	24.8	25.0	25.2	新規	
	成果指標	③	交通安全研修会(子育て世代・高齢者研修 会)等への参加人数【人/年】	人	1,037	1,040	1,045	1,050	1,055	1,060	1,065	新規	
	成果指標	④	安全・快適に自転車が利用できる(満足度: どちらかというと思う)【%】	%			-	-	-	-	-	新規	新基本計画期間からの区民 意識調査項目とする
	活動指標	⑤	地域連携による交通安全運動等の実施【回 /年】	回	30	30	30	30	30	30	30	新規	
	活動指標	⑥	安全・安心メール配信、多様な広報媒体に よる広報活動の実施【回/年】	回	28	32	32	32	32	32	32	新規	
	活動指標	⑦	自転車用ヘルメット補助個数【個/年】	個	1,071	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	継続	6-5-2 交通安全対策の推進
	活動指標	⑧	交通安全研修会(子育て世代・高齢者研修 会)等の開催回数【回/年】	回	44	44	44	44	44	44	44	新規	6-5-2 交通安全対策の推進

指標			指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
取組方針(1)	成果指標	①	区内の自転車乗用中の交通事故発生件数	定量的な目標値が設定できるため。	警視庁
	成果指標	②	「交通事故が少ない」について肯定的な回答をする割合【%】	目指すべき方向性が時点によって変化しない指標であるため。	区民意識調査
	成果指標	③	交通安全研修会(子育て世代・高齢者研修会)等への参加人数【人/年】	交通事故時の被害軽減に向け、研修会の開催を通じて、交通安全啓発と自転車用ヘルメットなどの補助制度などを直接区民へ紹介できるため。	所管課データ
	成果指標	④	安全・快適に自転車が利用できる(満足度:どちらかという とそう思う)【%】	目指すべき方向性が時点によって変化しない指標であるため。	区民意識調査
	活動指標	⑤	地域連携による交通安全運動等の実施【回/年】	交通安全啓発における地域連携の具体的な取り組みのため。	所管課データ
	活動指標	⑥	安全・安心メール配信、多様な広報媒体による広報活動の実施【回/年】	交通安全啓発における具体的な取り組みのため。	所管課データ
	活動指標	⑦	自転車用ヘルメット補助個数【個/年】	自転車事故で死亡する人の多くが、頭部致命傷を負うことから頭部損傷の軽減を図るため。	所管課データ
	活動指標	⑧	交通安全研修会(子育て世代・高齢者研修会)等の開催回数【回/年】	自転車乗車中の交通事故による受傷者が多い層をターゲットとして具体的な取り組みのため。	所管課データ

【3. 計画に掲載する指標の選定】

	指標種類	取組方針及び 指標番号	選定指標	選定理由
1	成果指標(区民意識調査以外)	(1)-①	区内の自転車乗用中の交通事故発生件数【件/年】	・各取組方針の進捗を図るにふさわしく、施策を最も広く表していると考えられるため。
2	成果指標(区民意識調査以外)	(1)-③	交通安全研修会(子育て世代・高齢者研修会)等への参加人数【人/年】	・両指標を記載することによって、交通安全の視点と、事故時被害を軽減するための取組みを表すことができるため。

施策（8-4） 魅力あふれる公園づくりへの挑戦

目指す姿

○近くに好きな公園があり、子どもから高齢者まで、区民が「自分たちの公園」として活用している。
○公園のリノベーションが進み、地域ごとに特徴のある公園が利活用されている。

取組方針

公園のリノベーション

古い遊具が残ったまま、あまり利用されていない公園があります。
ボール遊びができず、子どもたちがのびのび遊べる場所がほとんどありません。
多様化するニーズに応えられるように、公園も時代とともに変化する必要があります。
身近なみどりの資源を有効に活用するため、誰もがいつでも平等に利用でき、利用したくなる公園が求められています。

公園は地域コミュニティの拠点

コロナ禍が明け、公園で様々な活動が行われるようになってきました。
子どものボール遊びや、犬の散歩など、様々な年代の人が、思い思いに公園を利用しています。
公園を区民が自分たちの財産として、自分たちが主体的にルールを決めながら、地域コミュニティの拠点として活用されていくことが望まれます。

地域の特徴を生かした公園づくり

- 小規模な公園が多い豊島区の特性を前向きにとらえ、各公園を憩い・遊び・交流など、機能の役割分担にメリハリを付け特徴を持たせるとともに、互いに補完し合える公園づくりを目指します。
- 子どもから高齢者まで、様々な地域住民の意見を聞きながら、ボール遊びのできる公園、水や自然に親しめる公園、遊具のある公園など、特徴のある公園にリニューアルします。
- 障害の有無や年齢に関係なく、誰もが安全に、一緒に楽しむことができる公園を目指します。
- 身近なみどりを自然環境資源として次世代へ引き継ぎます。

地域の人々に愛され、親しまれる公園を育てる

- 身近な公園を、子育て・地域コミュニティ・憩いの場など、地域の特性に応じた利活用ができるように地域と一体となって育てます。
- 地域コミュニティの促進のため公園を活性化したいグループと締結する「公園活用協定」や公園等で花壇の維持管理を行う「みどりの協定」等で、公園の利活用を促し、身近な公園への愛着心を醸成すると共に、地域主体のイベントをバックアップします。
- 池袋駅周辺の4つの公園を核として、公民連携による様々なイベントなどにより、まちの魅力と賑わいを創出します。
- 地域住民や事業者・学生など、多様な意見を地域ルールとして反映しながら、地域の人たちが主体的にコーディネートできるよう取り組みます。

【施策の効果を表す代表的な指標】

成果指標①	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)
「近くに好きな公園がある」と思う区民の割合【%】	49.1	55.0

活動指標①	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)
公園活用協定やみどりの協定等を締結し、公園等で利活用を行う団体数【団体】	54	66

施策チェックシート

1. 施策名

	旧	新
施策名	みどりの活動拠点の創造・育成(5-1-1)	魅力あふれる公園づくりへの挑戦

2. 施策のポイント

現状	課題	取組方針
①老朽化した公園はあまり利用されていない。 ②広い公園が少ないなか、様々な年代の人々に利用されており、苦情も多い。	①同じような古い遊具が残っており、公園の魅力が低下している。 ②公園が地域コミュニティの拠点として活用されることが求められている。	①地域の特徴を生かした公園づくりを進めていく。 ②地域の人々に愛され、親しまれる公園を育てていく。

3. 現計画における主な事業

計画事業
公園の改修及び再整備(186)
造幣局跡地公園整備事業(187)
中小規模公園活用事業(188)
その他事業

施策チェックシート

4. 環境変化(社会動向・法改正・背景等)

◇子どもレターの開始に伴い、既存の公園でできないことなど多くの要望が出されている。
 ◇都市公園法の改正(令和元年4月)においても、①公園管理者も資産運用を考える時代、②民間との連携を考える、③都市公園を一層柔軟に使いこなすなど、画一的な公園の整備・管理ではなく新たなステージで公園の再生、活性化が求められている。

5. 区民・関係団体等の声

区民・関係団体等の声	①「ボール遊びができる場所が欲しい」、「こんな遊具が欲しい」、「公園を増やしてほしい」など、子どもたちからの要望が多い。(子どもレター) ②区民提案制度では公園に対する要望が最多得票となり、地域にとって公園の果たす役割が重要となっている。
施策に反映させた点	①区内の公園・児童遊園のリノベーションを進め、狭いながらも地域に愛される特徴ある公園づくりを行っていくことを明記した。 ②近くの公園をもっと好きになってもらうため、イベントの実施や公園の利活用の促進を明記した。

6. 基本構想の3つの理念を意識した点 ※現時点での構想案は別紙参照

(1)「誰もがいつでも主役」を意識した点 【平和・人権、多様性の尊重】	○多様な属性やニーズがあることを前提として、障害の有無や多様な世代などに関わらず、誰もが安全に、一緒に楽しむことを目指す点を明記した。
(2)「みんながつながる」を意識した点 【参画・協働・共創】	○身近な公園を利用し、誰もがいつでも参加できるよう、公園活用協定や協定花壇等による、公園の利活用を促進していくことを明記した。
(3)「『としま』らしさがあふれる」を意識した点 【文化・歴史の継承、地域特性の活用】	○小さな公園が数多くある豊島区の特徴を生かし、公園のリノベーションを考えながら、それぞれの公園に役割をもたせつつ、互いに補完し合える公園づくりを目指すことを明記した。

指標設定チェックシート

施策名	8-4	魅力あふれる公園づくりへの挑戦
部課名	都市整備部公園緑地課	

【1. 目指す姿、取組方針と指標の対応関係】

目指す姿	取組方針	定量的評価		定性的評価
		成果指標	活動指標	数値目標では捉えられない／ 数値化できない評価の視点
○公園のリノベーションを進め、特徴のある公園が多くの区民に利用されている。 ○近くに好きな公園があり、子供だけではなく幅広い年齢層の区民が集って、公園が地域のコミュニティの拠点になっている。	(1)	① 「近くに好きな公園がある」と思う区民の割合【%】	③ 公園を再整備した箇所数【箇所】	
		②	④	
	(2)	① 豊島区公園緑地課(公式アカウント)が発信したSNSのフォロワー数	③ 公園活用協定やみどりの協定等を締結し、公園等で利活用を行う団体数【団体】	
		②	④	

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】				新基本計画期間(2025-2029)									
指標名				単位	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	後期計画と同じ指標→継続 新計画で新規設定→新規	(左記、継続の指標のみ) 後期計画の施策番号・施策名
					実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		
取組方針(1)	成果指標	①	「近くに好きな公園がある」と思う区民の割合	%	49.1	49.5	50.5	51.5	53.0	54.0	55.0	継続	5-1-1 みどりの活動拠点の創造と育成
	成果指標	②											
	活動指標	③	公園を再整備した累積箇所数	箇所	2	4	6	8	10	12	14	新規	所管課データ
	活動指標	④											
取組方針(2)	成果指標	①	豊島区公園緑地課(公式アカウント)が発信したSNSのフォロワー数	人	0	500	1,000	1,500	2,000	2,500	3,000	新規	所管課データ
	成果指標	②											
	活動指標	③	公園活用協定やみどりの協定等を締結し、公園等で利活用を行う団体数	団体	54	56	58	60	62	64	66	新規	所管課データ
	活動指標	④											

指標			指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
取組方針(1)	成果指標	①	「近くに好きな公園がある」について、肯定的に思う区民の割合【%】	近くの公園にどれだけ愛着を持っているか端的に表す指標であるため。	協働のまちづくりに関する区民意識調査
	成果指標	②			
	活動指標	③	公園のリノベーション計画にもとづき、再整備した公園の箇所数(累計)	リノベーション計画にもとづき、特徴のある公園整備の進捗を示している指標であるため。	所管課データ
	活動指標	④			
取組方針(2)	成果指標	①	豊島区公園緑地課(公式アカウント)が発信したSNSのフォロワー数	区内各公園で実施される活動やイベントについて、興味をもってもらえる人の数を客観的に把握できるため。	所管課データ
	成果指標	②			
	活動指標	③	公園活用協定やみどりの協定等を締結し、公園等で利活用を行う団体数	公園等で地域活動を実施する団体を促進しているため。	所管課データ
	活動指標	④			

【3. 計画に掲載する指標の選定】

	指標種類	取組方針及び 指標番号	選定指標	選定理由
1	成果指標(区民意識調査)	(1)－①	「近くに好きな公園がある」と思う区民の割合【%】	・各取組み方針の進捗を図るに最もふさわしい指標で、施策を的確に表していると考えられるため。
2	活動指標	(2)－③	公園活用協定やみどりの協定等を締結し、公園等で利活用を行う団体数【団体】	